板書例

1　第一段

◆「彼」の状況
・日曜日の昼時
・平日は勤めに出ている
・昼食はモリソバ
・ブザーは不要なもの

◆えたいの知れぬ狼狽
1　来訪者の意図がわからない
2　自分よりも家が優位にある

2　第二段

◆写真班の「責任」と「義務」
責任　命令によって家を撮る
義務　家―撮られる義務
　　持ち主―撮らせる義務
◎持ち主自身が撮られる義務はない
　↓「彼」は不要（「彼」の不在）

◆「彼」の反応
・慌てる
・言うことが見つからない
◎反論できない

3　第三段

◆電気屋の言い分
・家の構造が悪い
・来訪者の声が通らない
・来訪者にとって迷惑
・来訪者が疲れる＝損をする
　⇔損得勘定
　住人だけが得をする

◆「彼」の言い分
・ブザーの音が嫌い
・声を聞けば来訪者の性格がわかる
・ブザーでは相手がわからない

◆「彼」の反応
うんざり
↓混乱、顔が赤くなる
↓肩を押されても無抵抗
◎反論できない

両者の違い
電気屋＝来訪者目線
「彼」＝住人目線

第四段

◆「彼」と家の関係
「自分がこの家の付属物」
↓家が自分の持ち物と言えるかわからない
◎所有を根拠づけているのは金銭
↓家における自分の重要性もわからなくなる

◆「光を発さない光源体」
＝本来の重要な特徴を失っている
↓存在すること自体の根拠を失う

◆モリソバは何を表しているか
〈第一段〉ただ食べている
〈第二・三段〉登場しない
〈第四段〉
1　伸びて固まっている
「食べ残すわけにはいかない」
↓今の自分が唯一持っているもの
2　写真集に写り込むと不都合
↓理想的な住宅のイメージに合わない
◎日常生活の象徴
3　「彼」の声が出ない

4 ←
◎日常そのものが「彼」に立ちはだかり、自己存在の問い直しを迫る。